

## ロボットの助っ人①

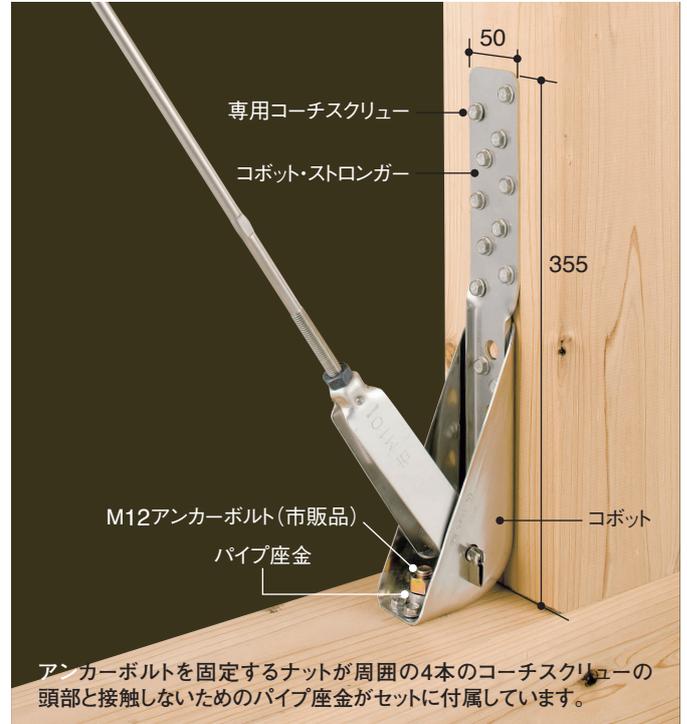
# ロボット本体と組み合わせて 引抜強度がさらにアップする「ロボット・ストロンガー」

### ●ロボット本来の接合補強効果を一層強化する専用補強プレート

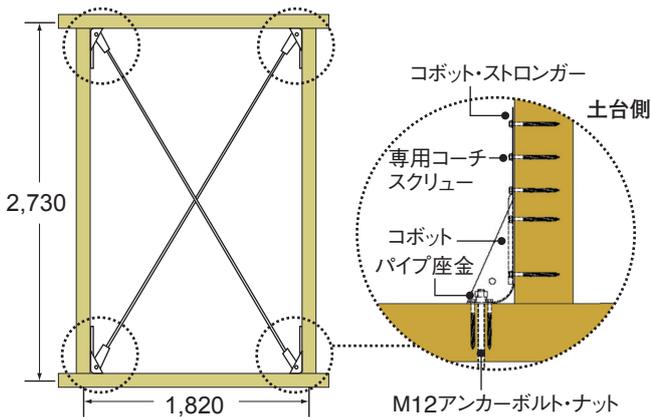
ロボット本体と組み合わせることで、本来備わっているホゾ抜け防止性能を2倍以上に強化する補強プレート「ストロンガー」。土台側は、ロボット本体をM12アンカーボルトとコーチスクリュー4本で固定。柱側は「ストロンガー」とロボット本体を重ねてコーチスクリューで固定します。4カ所のコーナーすべてを同様の処理をすれば、ホールダウン金物を使用したのと同様以上の引抜強度が得られます。



《梱包内容》ロボット・ストロンガー：1個／パイプ座金：1個／  
専用コーチスクリュー：11本（予備1本）  
※壁1面分の設置には、この梱包セットが4セット必要です。



### ■岐阜県立森林文化アカデミーにおける引抜および壁倍率試験



#### 《取付方法》

- 土台側：
  - ①基礎に位置を測ってM12アンカーボルトを埋設しておきます。
  - ②土台を貫通させたM12アンカーボルトにパイプ座金を通し、ナットで固定します。
  - ③M12アンカーボルトに干渉しないように注意して、専用コーチスクリュー4本でコボット本体を土台に締めつけます。
- 柱側：コボット本体の内側に「コボット・ストロンガー」を挿入、専用コーチスクリューでコボット本体と共に締めつけます。
- 梁側：上部にも同様の手順でストロンガーを設置します。M12アンカーボルトの代わりに、梁に貫通ボルトを通します。

#### 《必要部材》

- コボット・ステンブレースシステム：1面分（詳細はP.3を参照）
- コボット・ストロンガー：4個
- パイプ座金：4個
- （土台側）M12アンカーボルト・ナット：**ユーザー様手配**  
専用コーチスクリュー：8本
- （柱側）専用コーチスクリュー：60本
- （梁側）貫通ボルト：**ユーザー様手配**  
専用コーチスクリュー：8本

#### 《試験データ》引抜荷重試験

試験場所	岐阜県立森林文化アカデミー
土台の種類	スギ
最大荷重	45.9kN
許容荷重	18.9kN
N値	3.58

#### 《試験データ》面内せん断試験（壁倍率試験）

試験場所	岐阜県立森林文化アカデミー
柱芯～芯距離	1,820mm
壁倍率	3.41倍

※上記は、柱頭・柱脚にホールダウン金物はいわず、軸組内面各4ヶ所にコボットとコボット・ストロンガーで構成した場合の数値です。（引抜荷重もコボットが同時に負担します）